

八 戸

「看護の道、歩み続ける」



ろうそくを手に「宣誓の詞」を斉唱する学生

八学大看護学科2年生が宣誓式

八戸学院大（小林眞学長）の健康医療学部看護学科は10日、同大大学会館で宣誓式を行い、2年生43人が看護の道を歩み続ける決意を新たにしました。

宣誓式は本格的な実習が始まるのを前に、看護の専門性と責任を再認識してもらおうと「看護の日」（5月12日）にちなんで毎年実施している。

式典では、宣誓者がそれぞれのろうそくに火をともし、全員で「宣誓の詞」を斉唱。小林学長が「ともした明かりのように、患者に温かく寄り添い、病院や地域社会を明るく照

らす力となることに期待する」とあいさつした。

宣誓者を代表し、佐々木彩さんが「看護の道を歩み続けるということは人々の命と暮らしを守り、最後まで誇りある人生を支えていくために学び続け、考え行動し続けること。学ばせていただけたことに感謝し、仲間と支え合いながら、それぞれが思い描く未来を指していく」と誓った。

式典後は、脳卒中と向き合う活動団体「One Feels」（八戸市）の佐々木三之代表が「脳卒中当事者の体験とこれから看護師になる皆さんに伝えたいこと」と題し記念講演を行った。

（向屋敷 聡）